

## 1 目的

ごみの減量の推進や温室効果ガスの削減、資源の有効活用を図るため。

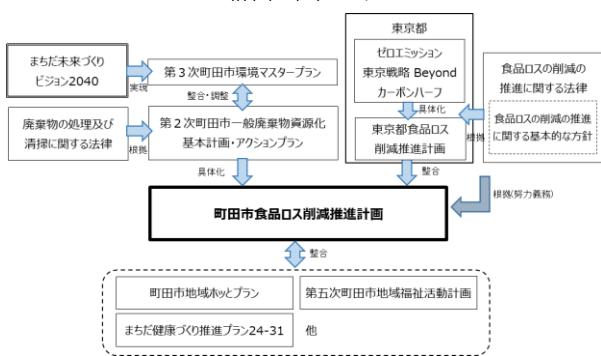
## 2 位置付け

「食品ロスの削減の推進に関する法律」を根拠とし、「第2次町田市一般廃棄物資源化基本計画」及び「アクションプラン」の「基本施策2-1 生ごみの減量の推進」を具体化するものとして策定する。

## 3 計画期間

アクションプランと同様に、本計画の期間は2026年3月から2031年3月までとする。

## 計画の位置づけ



## 4 現状

## (1)国内及び市内の食品ロスの現状

	2020	2021	2022	2023	2024
国内	522万トン	523万トン	472万トン	464万トン	-
前年度比	-8.4%	0.2%	-9.8%	-1.7%	-
市内	14,420トン	14,973トン	15,064トン	13,752トン	14,967トン
前年度比	0.8%	3.8%	0.6%	-8.7%	8.8%
家庭系	10,721トン	11,208トン	11,179トン	9,931トン	10,205トン
事業系	3,700トン	3,766トン	3,885トン	3,821トン	4,762トン

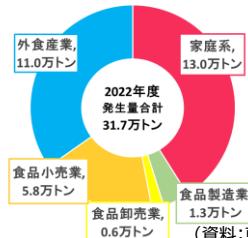
全国的に見ると減少傾向だが、町田市は明確な減少傾向ではない。

## (3)事業者との主な連携実績(2024年度)

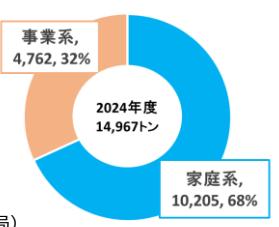
- 「まちだ☆おいしい食べ切り協力店」やフードシェアリングアプリ「TABETE」に登録する店舗は、それぞれ20店舗程度。
- 「TABETE」に出品された食品について、利用者が購入した割合(マッチング率)は34%程度(年度平均)。

## (4)食品ロスの内訳(都内・市内)

## 都内の食品ロスの内訳



## 市内の食品ロスの割合



- 都内で発生する食品ロスは、家庭系が41%、事業系が59%となっている。
- 市内で発生する食品ロス家庭系が68%、事業系が32%となっている。
- 都内で発生する事業系食品ロスは、外食産業での発生が約60%を占めている。

## 5 課題

計画に位置付ける施策の方向性を定めるため、食品ロスの現状と食品ロスに対する住民意識・取組状況等から、市における食品ロス削減に向けての課題を以下のとおり整理。

- |  |   |
|--|---|
| 食品ロス削減の取組を行っている市民の割合が高い一方、市内で発生する家庭系食品ロスの量は、近年ほぼ横ばい。 | 自らが排出する食品ロスの量を正しく把握していたり必要がある。            |
| 食品ロス削減を含む3Rの取組に対して、必要性を感じない市民や興味がない市民が一定数いる。         | 食品ロス削減の必要性を周知とともに、食べ物を大切にする価値観を醸成する必要がある。 |
| 食品ロス削減の取組を行うきっかけがないと回答する市民が一定数いる。                    | 市民が食品ロスの削減に取り組むきっかけづくりを行う必要がある。           |
| 食品ロス削減の取組のやり方がわからないと回答する市民が一定数いる。また、市の取組に対する認知度が低い。  | 食品ロス削減の具体的な取組・行動例を周知する必要がある。              |
| 事業者との連携の取組は行っているものの、事業者の参加率が低く、連携が不十分である。            | 市と事業者の連携を強化する必要がある。                       |

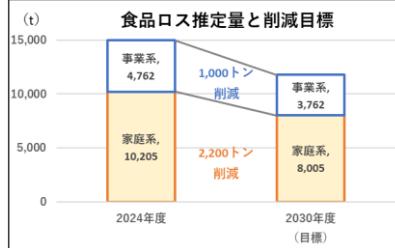
## 6 基本方針

市民・事業者が、食品ロスの問題を自分事として捉え、理解したうえで削減に取り組むことができるよう、以下の方針を踏まえて取組を推進する。

- 食品ロス問題への意識や取組状況に応じた啓発の実施
- 他部門と連携した取組の推進
- 発生抑制を最優先とした取組の実施

## 7 目標(2024年度→2030年度)

- 家庭系削減量 2,200トン (2024年度比約22%削減)
- 事業系削減量 1,000トン (2024年度比約21%削減)
- 食品ロス削減に取り組む市民の割合 74.2%→80%



## 8 目標達成に向けた施策の方向性

市民・事業者の食品ロス問題への意識や食品ロス削減の取組状況には差異があります。これを踏まえ、食品ロス削減に取り組むに至るまでに必要なことを3段階に分けて考え、それぞれに適した取組を実施する。

## (1)市民の食品ロス削減の行動を促す取組

## STEP1 食品ロスへの理解を促し、食べ物を大切にする価値観を醸成します

## 具体的な取組

- 実態の把握
- ・食品ロスダイアリーの作成及び活用
- ・実態調査の実施及び結果の周知
- ・「資源とごみの出前講座」の実施
- ・食育と連携した啓発の実施
- ・学校給食を通じた啓発

## STEP2 実践行動のきっかけづくりを行います

## 具体的な取組

- ・行動の動機付けとなるようなデータを活用した広報・啓発の実施
- ・ホームタウンチームと連携した取組の実施
- ・飲食店やスーパー等と連携した広報・啓発の実施
- ・市民と連携した啓発

## STEP3 実践行動の促進・定着・強化を行います

## 具体的な取組

- 実態の把握
- ・行動の動機付けとなるようなデータを活用した広報・啓発の実施
- ・事業所へのヒアリングを通して実態把握
- ・「まちだ☆おいしい食べ切り協力店」やフードシェアリングサービスへの登録に向けた働きかけ
- ・飲食店での持ち帰りの推進
- ・食品リサイクル施設の活用事例の周知
- ・優良事例の周知

## STEP3 実践行動の促進・定着・強化を行います

## 具体的な取組

- ・スーパーや飲食店と連携したキャンペーンの実施
- ・事業者が実施している取組の市民周知
- ・優良企業への表彰

## 9 取組及び指標一覧

段階	市の取組	概要・指標	段階	市の取組	概要・指標
市民の食品ロス削減の行動を促す取組	STEP 1 食品ロスへの理解を促し、食べ物を大切にする価値観を醸成します	食品ロスダイアリーの作成及び活用【拡充】	実態調査の実施及び結果の周知【継続】	S T E P 1 食品ロス削減の必要性の理解促進	実態調査の実施及び結果の周知【継続】 事業所へのヒアリングを通した実態把握【継続】
		1週間自宅で発生する食品ロスを記録する「食品ロスダイアリー」を作成し、市民に活用いただく機会をつくります。	指標：環境学習の場等での食品ロスダイアリーの活用 現状(2024年度)：未実施 目標(2027年度)：活用開始	ごみ組成調査を実施し、事業者向け講習会やイベント等で結果を周知します。 大規模事業所の立入検査等の機会を利用して、事業所の取組状況等についてヒアリングを行います。中小規模の食品関連事業者に対してもヒアリングの機会を作ります。	
		市内で発生する食品ロスの実態や市民意識を把握するため、ごみ組成調査や市民アンケートを実施し、結果を周知します。	指標：食品ロスに関心がある市民の割合 現状(2024年度)：94.4% 目標(2030年度)：96.0%	削減に取組むきっかけとなるような広報・啓発を実施します。	
		「資源とごみの出前講座」の実施【継続】	講話を通じて食品ロスの現状を伝えるとともに、家庭でできる食品ロス削減の取組について紹介します。	指標：行動の動機付けとなるようなデータ（食品ロス発生による経済損失等）を活用した広報・啓発の実施 現状(2024年度)：未実施 目標(2026年度)：2回以上/毎年	「まちだ☆おいしい食べ切り協力店」や「TABETE」について、事業者向け講習会やイベント等で、事業の概要説明や登録の呼びかけを行います。
	STEP 2 実践行動のきっかけづくりを行います	食育と連携した啓発の実施【継続】	主に食育についての情報発信を行う「まちだ食のわ」SNSでの発信等を行うことで、情報を受け取る市民の幅を広げます。	指標：「まちだ☆おいしい食べ切り協力店」及び「TABETE」登録店舗数 現状(2024年度)：40店舗 目標(2030年度)：100店舗	消費者の自己責任での持ち帰り行動を推進するため、食品衛生実務講習会等の食品関連事業者が参加する講習会やイベントで情報提供や実施の呼びかけを行います。
		学校給食を通じた啓発の実施【継続】	規格外野菜等を使用した加工品や、賞味期限が近付いた防災備蓄食品を給食で提供することで、子どもたちや保護者の食や食品ロスへの意識を高めます。	指標：市内飲食店等での持ち帰り容器の導入 現状(2024年度)：未導入 目標(2026年度)：導入	指標：市内飲食店等での持ち帰り容器の導入 現状(2024年度)：未導入 目標(2026年度)：導入
		行動の動機付けとなるようなデータ（食品ロス発生による経済損失等）を活用した広報・啓発の実施【新規】	食品ロス削減に取組むきっかけとなるような広報・啓発を実施します。	食品リサイクル施設の活用事例の周知【継続】	食品衛生実務講習会等の食品関連事業者が参加する講習会やイベント等で、食品リサイクル施設の活用事例の周知や活用の呼びかけを行います。
		ホームタウンチームと連携した取組の実施【新規】	指標：行動の動機付けとなるようなデータを活用した広報・啓発の実施 現状(2024年度)：未実施 目標(2026年度)：実施	優良事例の周知【継続】	小分け販売や少量販売などの消費者が使いきりやすい工夫など、その他食品ロス削減に関する優良な取組について情報提供を行います。
		飲食店やスーパー等と連携した広報、啓発の実施【継続】	ホームタウンチームと連携し、スポーツ観戦に訪れる方々に向けて食品ロス削減行動のきっかけをつくります。	ステップ3 実践行動の促進、定着、強化を行います	スーパーや飲食店と連携したキャンペーン等の実施【継続】 事業者が実施している取組の市民周知【継続】
		市民と連携した啓発【新規】	民が日常的に利用する飲食店やスーパー等と連携してキャンペーンを行います。	優良企業への表彰【継続】	「まちだ☆おいしい食べ切り協力店」や持ち帰り推進店舗、その他事業者が行う食品ロス削減の取組について、ホームページやSNS、広報紙で周知を行います。
他の取組	STEP 3 実践行動の促進、定着、強化を行います	市民リーダー等と連携し、広報・啓発の場を広げることで食品ロス削減行動のきっかけをつくります。	指標：市民と連携した啓発の実施 現状(2024年度)：未実施 目標(2028年度)：1回/毎年	飲食店やスーパー等と連携して「まちだ☆おいしい食べきりキャンペーン」等を行います。	食品ロス削減に寄与する取組を行っている優良企業に対し、「まちだ3R賞」の表彰を行います。
		食材を使い切るレシピやリメイクレシピ等の作成、周知【継続】	食材を使い切るレシピやリメイクレシピ等を考案し、イベント等でのレシピの周知を行います。	公共施設から発生する食品ロスの削減	公立保育園について、お盆や年末年始、夏休み等の登園人数が少ない時期に、乾物を利用して調理することで食品ロスが出ないよう工夫します。
		使い切り料理教室の実施【継続】	指標：食材を使い切るレシピやリメイクレシピの考案 現状(2024年度)：未実施 目標(2026年度)：1回/毎年	イベント等での災害時用備蓄食品の配布【継続】	災害時の避難者用の食料や市有施設の職員や来館者のため備蓄している食品（災害時用備蓄食品）について、期限切れとなる前にイベント等での配布を実施します。
		フードシェアリングサービスの利用促進【継続】	食品ロス削減をテーマにした料理教室を開催し、食材の使いきり方法や食材を無駄なく使う調理方法等を紹介します。	学校給食における災害時用備蓄食品や規格外野菜の活用【継続】	規格外野菜等を使用した加工品や賞味期限が近付いた災害時用備蓄食品を給食で提供することで、食品ロスを削減します。
		フードドライブの実施と拡大・周知【拡充】	フードシェアリングアプリ「TABETE」について、イベント等で周知し、利用を呼びかけます。	生ごみの自家処理	規格外野菜等を使用した加工品や賞味期限が近付いた災害時用備蓄食品を給食で提供することで、食品ロスを削減します。
	他の取組	指標：市内の店舗から出品された食品のマッチング率 現状(2024年度)：34% 目標(2030年度)：40%	指標：市内生ごみ処理機購入費の補助を行います。より多くの方に補助制度を活用いただくため、補助割合や補助額など制度の見直しを実施します。		
		多くの市民・事業者にフードドライブを活用いただけるよう、回収拠点を拡充します。	指標：家庭用生ごみ処理機購入補助【拡充】 現状(2024年度)：検討 目標(2026年度)：実施	指標：家庭用生ごみ処理機購入費の補助を行います。より多くの方に補助制度を活用いただくため、補助割合や補助額など制度の見直しを実施します。	
		指標：公共施設におけるフードドライブの受け取り窓口数 現状(2024年度)：6か所 目標(2030年度)：12か所	ダンボールコンポスト講習会の実施【継続】	指標：家庭用生ごみ処理機購入費の補助を行います。より多くの方に補助制度を活用いただくため、補助割合や補助額など制度の見直しを実施します。	
			生ごみの再資源化	指標：食品リサイクル施設の活用による生ごみの再資源化促進のため、市や事業者の活用事例をホームページや広報等で周知します。	